

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大田区立田園調布中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	0	7学級	16人
生徒数	83	61	76	0	220人	

研究の概要

1. 研究主題

各教科における基礎基本の定着と 個に応じた学力の向上を図る授業の工夫 授業形態と教材の工夫・指導に生きる評価
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>数学科では、習熟度別学習の指導の工夫や教材の開発、評価のあり方について検討し、基礎的な知識と技能及び数学的な考え方を育成するとともに個に応じた学習のあり方を工夫改善する。 (学力の個人差が大きい教科であり、個の学習のペースや習熟の程度にあわせて、学習できる形態をとることが有効と思われる場面がある。)</p> <p>英語科では、TTや少人数制学習の指導の工夫や教材の開発、評価のあり方について検討し、英語に対する興味関心を高め、表現や理解の能力を育成する。 (コミュニケーション能力を伸ばすためには、きめ細かい指導と会話の回数の確保や発言しやすい環境づくりが有効と思われる。)</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 各教科における基礎基本の定着と 個に応じた学力の向上を図る授業の工夫 ～ 授業形態と教材の工夫・指導に生きる評価 ～</p> <p>研究の見通し 数学科において、年間の指導の流れの中で、既習の知識や学力の差が大きいと思われる単元や部分において、習熟度別クラス編成における授業を取り入れることにより、個に応じた学習が可能となり、基礎基本の定着やより発展的な学習にも取り組めると考え、数学に対する興味や関心も高められると仮定した。 また、英語科においては、コミュニケーションを必要とする部分において、少人数制授業、グループ学習、ペア学習等を取り入れるとともに、興味関心のある深い内容の教材の工夫、一人ひとりを大切に指導の工夫によって、各自の学習が、より積極的に行なわれ、英語に対する興味関心を高め、表現や理解の能力を伸ばすことができると考えた。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 本校の生徒の学習に対する実態や意識を調査する為に、学習に関する意識・実態調査を実施し、集計分析した。 (2) 基礎・基本分科会にて、各教科における基礎基本を明確化し、確認した。 (3) 指導と評価分科会にて、各教科における評価や指導の方法についてまとめ、各教科における工夫や実践を共有化した。 (4) 指導方法分科会(英語科・数学科)にて、学習形態の工夫についての研修を深め、各教科の実態に合わせて、少人数制授業、習熟度別授業、</p>
--------	--

TT形態の授業、クラス単位一斉形態の授業等を学習単元や内容によって組み入れ、実践を行なった。
 また、基礎・基本の定着を図り、発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発や指導法の工夫を研究した。
 生徒の学力検査の結果をもとに、補充的内容を加えたり、指導改善をおこなった。

(5) 研究全体会で、各分科会における実践を意見交換し、各教科における基礎基本の定着に対する工夫、改善に努めた。

(6) 講師の先生をお招きし、評価法の工夫と基礎基本に対する考え方を研修した。

(7) 授業公開を行ったりして、研究経過を検討した。
 また、中間報告書を作成するとともに、今後の研究の方向性について、検討した。

平成16年度

テーマ
 各教科における基礎基本の定着と
 個に応じた学力の向上を図る授業の工夫
 ～ 授業形態と教材の工夫・指導に生きる評価 ～

研究の見通し
 英語科、数学科において、15年度の実践と生徒の実態を踏まえ、学習指導に対しての一層の工夫改善と実践を行なうことにより、生徒の学習に対する意欲を高め、基礎基本の定着を図る。
 また、他の教科においても、生徒の学習に対する意識調査を踏まえて、基礎基本の定着と授業の工夫改善を行なうことで、本校生徒の学習習慣を定着させ、個々の力の伸長を図る。

研究の内容・方法

(1) 指導と評価分科会にて、評価と指導の一体化を意識し、生徒の学習意欲に結びつける評価方法の工夫を研究、実践していく。

(2) 指導方法分科会（英語科・数学科）にて、昨年度の実践と結果を踏まえ、学習形態の工夫についての研修を一層深め、各教科の実態に合わせて、少人数制授業、習熟度別授業、TT形態の授業、クラス単位一斉形態の授業等を学習単元や内容によって組み入れ、実践を行なう。また、そのための教材開発や指導法の工夫、評価のあり方の研究を深める。

(3) 研究全体会で、各分科会における実践を意見交換し、各教科の工夫実践の共有化や意見交換を行い、本校生徒の学習に対する意欲、関心を高める工夫と基礎基本の定着を図る。

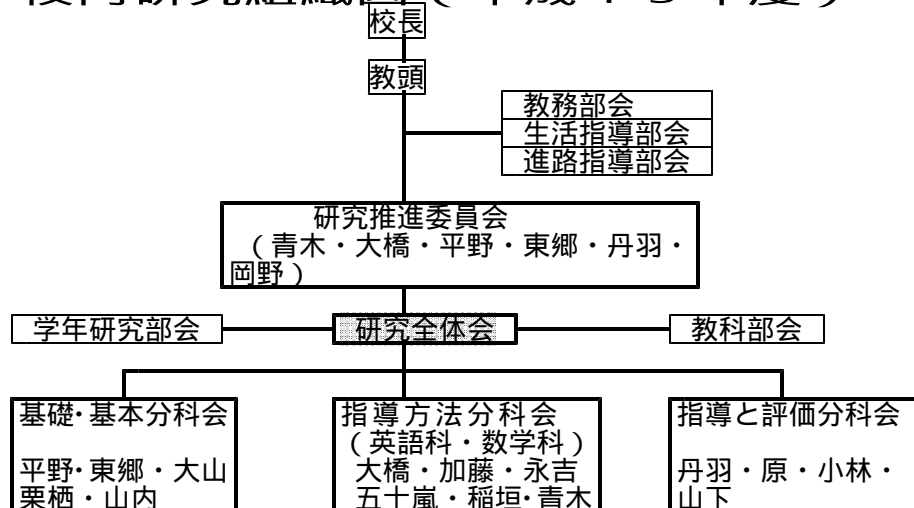
(4) 実践後の生徒の実態、意識調査を実施し、再度生徒の実態を把握し、分析することで今後の指導に生かす。

(5) 実践や成果をまとめ、研究報告書の作成をする。

(6) 授業公開および発表を行なう。

(3) 研究推進体制

校内研究組織図（平成15年度）



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・各教科における基礎・基本をまとめ明確化することにより、基礎基本事項の定着を図るための工夫改善が各教科指導において見られた。
- ・評価における研修を深め、評価方法の工夫を情報交換し共有化することにより、各教科における評価方法に工夫改善が見られた。
- ・英語科の学習指導においては、生徒の実態や教材に応じて、TT、一斉授業、グループ学習、ペア学習を取り入れた。
ゆっくりとていねいに進め、warm-up 学習により、基礎的な力の定着を図った。
また、歌、映画など興味関心を引きつける教材の工夫、表現力をつける教材の工夫を図った。
- ・数学科の学習において、一斉授業、TT形態の授業、習熟度別授業を学習内容や単元に応じて効果的に柔軟に取り入れ、指導の流れを構成していくことで、個々の力に合わせた学習を展開することができ、学習がやりやすかったという感想が聞かれた。
また、スモールステップに編成したプリント教材の学習や繰り返しの復習演習により、基本的な力の定着を図った。

2. 今後の課題

- ・さまざまなクラス編成や学習形態をとることは、安定した生徒の生活状況の上に成り立つものであり、生活指導上の別の側面から厳しい状況にある面もあり、生徒の実態に即して計画していく必要がある。
- ・生徒の学習に対する意識・実態調査の分析が生かされてない面がある。もう一度分析結果を検討し、各教科の学習指導に生かしていける部分の洗い出しをする必要がある。
- ・学力という言葉の意味を含め、どんな数値を持って学力が向上したと判断できるのかをが難しい。

学力把握のための学校としての取組

全校生徒に学習に対する実態、意識調査を実施し、学習や授業に対する意識や、家庭学習の状況等を把握した。
数学科においては、学力考査を実施し（平成15年度2学年7月）、各単元内容の通過率における本校生徒の実態を把握し、指導に生かした。また、授業形態の工夫前後における、基礎力テスト等実施し学習の成果を検討した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・HP作成し、研究経過を掲載（<http://academic2.plala.or.jp/dncfj/>）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無